■三木清　　哲学者。戦前昭和期のもっとも輝かしい思想家の一人となったが，終戦間近に検挙投獄され，獄死した。
みききよし
八幡製鉄始・1897＝　　兵庫県揖保郡平井村(龍野市)で，富裕な農家の長男に生まれる。

日比谷公園・1903＝ 6歳：尋常小学校に入学。

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・1906＝ **9歳：**
韓国反日暴動1907＝10歳：高等小学校に進み，

伊藤博文暗殺1909＝12歳：龍野中学校に入学。
韓国併合・・1910＝13歳：文学に興味を抱き蘆花などを愛読。以後，中学時代は内外の文学に耽溺。
大逆事件判決1911＝14歳：漢詩を習う。
明治天皇没・1912＝15歳：校内誌に短歌を発表。
大正政変・・1913＝16歳：学生歌を作詞。文学者になろうとするが，やがて_哲学者を志すようになり，
第一次大戦始1914＝17歳：_上京して，第一高等学校に入学。田舎出で孤独，宗教書を愛読し，親鸞に感銘，「歎異抄」などを読む。
21ヶ条要求・1915**＝18歳：**
民本主義・・1916＝19歳：_哲学購読会を組織，「善の研究」を読んで，西田幾多郎に哲学を学ぼうと決意，
ロシア革命・1917＝20歳：_西田を訪ね，生涯の師弟関係が始まる。一高卒では異例の京都帝国大学文学部哲学科に入学。京大始まって以来の秀才といわれ，西田・田辺元・波多野精一らに学び，新カント派に親しんで，
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝22歳：夏期休暇に東京で友人と家を借りて自炊し，自動車事故で一時入院。「語られざる哲学」を書き，
大暴落・・・1920＝23歳：_哲学誌に「個性の理解」を，続けて卒業論文も発表して，卒業。大学院に在籍し大谷大学などで講義。
原敬首相暗殺1921＝24歳：教育召集で3カ月軍隊生活。
水平社結成・1922＝25歳：_波多野の推薦で岩波茂雄の援助受け，ドイツに留学，<第一次世界大戦>後の苛酷な現実に触れ，マンハイムらと知合い，羽仁五郎と生涯の親交始まる。
関東大震災・1923＝26歳：_リッケルトのゼミで発表し新聞に寄稿。マールブルクに移り，ハイデッガーに出会い開眼，
護憲三派圧勝1924**＝27歳：**_パリに移り，ふと手にしたパスカルに感激し没入，
治安維持法・1925＝28歳：_次々とパスカル論を日本に送って発表後，帰国。
円本時代始・1926＝29歳：母が死去。*「パスカルに於ける人間の研究」を刊行し高い評価。河上肇手伝い，自らも唯物史観に着手。
金融恐慌・・1927＝30歳：_京大から袖にされ，上京して法政大学教授。論文「人間学のマルクス的形態」をはじめ，次々とマルクス主義研究の論文を発表，岩波書店へ協力し始め，まず岩波文庫創刊(辞の草稿も)。岩波と朝鮮・中国旅行。
共産党事件・1928＝31歳：_岩波講座{世界思潮}を共同編集。「唯物史観と現代の意識」刊行。満鉄の招聘で満州を講演旅行。羽仁五郎と雑誌{新興科学の旗の下に}を創刊，折から昂揚したマルクス主義革命運動に大きな影響を与える。
世界恐慌・・1929＝32歳：東畑精一の妹喜美子と結婚。「社会科学の予備概念」「史的観念論の諸問題」刊行。
海軍軍縮条約1930＝33歳：長女が誕生。_服部之総らの批判続き，共産党に資金援助したことから治安維持法違反で検挙，釈放されるも失職，総合雑誌・新聞への寄稿が増えて行くが，革命家の側からはブチブル思想家として排除される。
満州事変・・1931＝34歳：没後百年記念に設立の国際ヘーゲル連盟日本支部代表となる。_「観念形態論」刊行。岩波講座{哲学}発刊。
五一五事件・1932＝35歳：_「歴史哲学」(叢書の一冊)や「哲学的人間学」(草稿のみ)をはじめ，独自の歴史的人間学の構想を展開。
国際連盟脱退1933**＝36歳：**_岩波講座{日本文学}で発禁処分。「危機に於ける人間の立場」刊行。反ファシズム{学芸自由同盟}結成。
帝人疑獄事件1934＝37歳：「人間学的文学論」({文芸復興叢書}の1冊)。*座談会への出席も増え，"新しいヒューマニズム"によって，戦前昭和期のもっとも輝かしい思想家の一人となるに至る。
芥川直木賞始1935＝38歳：翌年にかけて，西田幾多郎との対談が新聞連載される。
二二六事件・1936＝39歳：妻が死去。新聞コラム集めた「時代と道徳」刊行。
日中戦争始・1937＝40歳：妻への追悼文集。{文学界}同人。3年前からの「哲学的人間学」の完成断念し，_「構想力の論理」連載開始。
健保+総動員 1938＝41歳：_「人生論ノート」連載開始。昭和研究会の眼にとまり呼ばれて参加，文化委員長となる。岩波新書も実現。
第二次大戦始1939＝42歳：小山いと子と再婚。_「哲学ノート」連載開始。昭和研究会パンフ「新日本の思想原理」を執筆するなど，"東亜新秩序"論に理論的根拠を与えようとするも挫折。「構想力の論理第一」刊行。
大政翼賛会・1940＝43歳：弟が中国で戦死。満州国招待で講演旅行。*岩波新書で「哲学入門」刊行し，驚異的ベストセラー。
日米開戦・・1941＝44歳：_「人生論ノート」「哲学ノート」刊行，
・・・・・・1942**＝45歳：***「戦時認識の基調」が軍部の怒り買い，以後雑誌掲載できなるとともに，陸軍宣伝班員として徴用され，清水幾太郎・中島健蔵らと南方に送り込まれる。「技術哲学」刊行。
創価学会検挙1943＝46歳：妹が死去。ほとんど活動できなくなり，
年金+総武装 1944＝47歳：後妻も死去。長女連れて埼玉県に疎開。
敗戦・・・・1945＝48歳：_警察を脱走した共産主義者タカクラテル(高倉輝)を匿い逃亡させたことから検挙投獄され，敗戦後間もなく，釈放を待たずに獄死した。遺稿「親鸞」。「構想力の論理第二」刊行。

CenturyBooks「三木清」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，